

日本の年中行事(にほんのねんちゅうぎょうじ)と行事食(ぎょうじしょく)

五節句(ごせっき)

昔(むかし)の中国(ちゅうごく)で、暦(こよみ)にきめられた季節(きせつ)のかわりめのことです。
日本(にほん)の江戸時代(えどじだい)に「重要(じゅうよう)な年中行事(ねんちゅうぎょうじ)」として、
年(ねん)に5日(いつか)のお祝(いわい)の日(ひ)が定められました。

人日(じんじつ)の節句(せっき) 1月7日

人(ひと)の日(ひ)という意味(いみ)です。

昔(むかし)の中国(ちゅうごく)で、1月7日に人(ひと)の占い(うらない)をし、1年(いちねん)の無事(ぶじ)を祈(いの)るために、七草(ななくさ)がはいったお粥(かゆ)をたべる習慣(しゅうかん)があった
ことからはじめた行事(ぎょうじ)です。

日本(にほん)では、七草の節句(ななくさのせっき)として、知(し)られています。

上巳(じょうし)の節句(せっき) 3月3日

3月最初(さいしょ)の巳(み)の日(ひ)という意味(いみ)です。

人(ひと)の汚(けが)れを、人形(にんぎょう)に移(うつ)して川(かわ)や海(うみ)に流(なが)す行事(ぎょうじ)から始(はじ)まり、江戸時代(えどじだい)に「ひなまつり」として全国(ぜんこく)に広(ひろ)が
りました。

桃(もも)の節句(もものせっき)ともいい、「おひなさま」をかざって、白酒(しろざけ)を飲(の)み、ひなあ
れやおすしなどをたべます。

端午(たんご)の節句(せっき) 5月5日

5月最初(さいしょ)の午(うま)の日(ひ)という意味(いみ)です。

薬草(やくそう)の「しょうぶ」をつむことから始(はじ)まり、「しょうぶ」が武道(ぶどう)をたいせつ
にする意味(いみ)につながることから、男の子(おとこのこ)の出世(しゅっせ)をねがう行事(ぎょうじ)
になりました。

この日(ひ)には、かしわもちやちまきなどをたべます。

七夕(しちせき)の節句(せっき) 7月7日

ふつうは、「たなばた」とよばれていますが、「しちせき」がたやすいよびかたです。

中国(ちゅうごく)の「おり姫(ひめ)」「ひこ星(ほし)」のおはなしと、機(はた)で織(お)った布(ぬの)を
神様(かみさま)にそなえ、健康(けんこう)を願(ねが)ったという日本(にほん)の習慣(しゅうかん)がいっし
よになった行事(ぎょうじ)です。

この日(ひ)には、そうめんやところてんをたべます。

重陽(ちょうよう)の節句(せっき) 9月9日

菊の花(きくのはな)に長生き(ながいき)を祈(いの)る中国(ちゅうごく)の習慣(しゅうかん)と、秋(あ
き)の収穫(しゅうかく)を祝(いわ)う日本(にほん)の祭り(まつり)がいっしょになった行事(ぎょうじ)
です。

菊の節句(きくのせっき)や栗の節句(くりのせっき)ともよばれ、菊の花(きくのはな)をかざって、菊花
酒(きくかしゅ)を飲(の)み、栗(くり)ごはんや蒸栗(むしぐり)をたべます。

二十四節気(にじゅうしせっき)

一年(いちねん)を春夏秋冬(はる・なつ・あき・ふゆ)の4つの季節(きせつ)にわけ、さらにそれらを6つにわけた、季節(きせつ)をあらわす24の名前(なまえ)のことです。

春(はる)の立春(りっしゅん)・春分(しゅんぶん)、夏(なつ)の立夏(りっか)・夏至(げし)、秋(あき)の立秋(りっしゅう)・秋分(しゅうぶん)、冬(ふゆ)の立冬(りっとう)・冬至(とうじ)などがあります。

日本(にほん)では、これらの日(ひ)にも、とくべつな食べ物(たべもの)を食べます。

このように、日本(にほん)には、昔(むかし)から伝(つた)わっているいろいろな行事(ぎょうじ)があり、その行事(ぎょうじ)のときには、とくべつな食べ物(たべもの)を食(た)べているのです。